

MFJ

モトクロス競技役員講習会テキスト

はじめに

オフィシャル(Official)とは、英語で公的な・公共のという意味です。レースでいうオフィシャルは競技役員のことですが、文字どおり公的な意味あいの強い仕事です。`レースを公平で安全、円滑に運営できるよう常に心がけなければなりません。ですから、オフィシャルとしてレースに参加する際は、常にエントラントや観客及び他のオフィシャルの安全を考え公平な立場に立って、各々の役割を実行しなければなりません。そのためには規則を熟知し、指導的立場にあることを十分に意識して行動してください。



一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

<http://www.mfj.or.jp>

2017年3月

MFJ組織について

モトクロスは世界中で子供から大人まで多くの仲間たちが参加しているスポーツです。



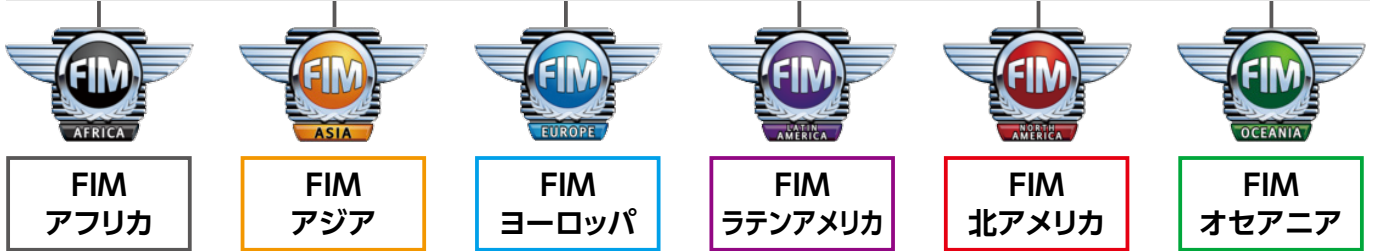
FIM(エフ・アイ・エム)

国際モーターサイクリズム連盟

1904年設立 国際オリンピック委員会認可団体

世界で100ヶ国以上の国がメンバーに入っています。本部はスイスのジュネーブにあります。

FIMは世界を6地域に分けて活動しています。



日本はFIMアジアのメンバーです。



MFJ(エム・エフ・ジェイ)

一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
1961年設立
日本国内のモーターサイクルレースを統括する団体です。

MFJは日本国内を8地区に分けて活動しています。(加盟団体)

MFJ北海道	MFJ東北	MFJ関東	MFJ中部
MFJ近畿	MFJ中国	MFJ四国	MFJ九州

■ FIM(国際モーターサイクリズム連盟)

FIMは、世界的にモーターサイクルスポーツを管理し、普及・振興を図り、これらの分野におけるユーザー支援団体として創立された国際組織。現在本部をスイスのMiesに置き、現在の加盟国は109カ国。世界のモーターサイクルスポーツ全ての競技運営を統括しているとともにIOC(国際オリンピック委員会)から2000年9月に認可され、モーターサイクルスポーツをオリンピック競技種目とすべく、積極的な活動を行っている。

■ FIMアジア

FIMが世界を6地域(ヨーロッパ・北アメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア・アフリカ・アジア)に分けて管理するため設けた地域別協会であり、アジア圏内のFIM加盟国25カ国(アラブ首長国連邦、イラン、インド、インドネシア、カタール、韓国、クウェート、*グアム、シンガポール、スリランカ、タイ、*台湾、タジキスタン、中国、ネパール、日本、ヨルダン、バーレーン、フィリピン、*香港、*マカオ、マレーシア、モンゴル、レバノン、サウジアラビア)で構成され、積極的に相互の交流を図り、アジア圏内におけるモーターサイクルスポーツの普及・発展をテーマに活動を行っている。

※過去の経緯により国として扱われている。

■ MFJ(一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会)

日本国内のモーターサイクルスポーツを統括する機関として1961年(昭和36年)10月に創立され、FIMに加盟する唯一の日本代表機関。'90年(平成2年)12月に文部省(現:文部科学省)所管の財団法人となり、モーターサイクルスポーツの普及・発展を通じ、国民の心身の健全な育成に寄与することを目的としている。2012年4月を以て一般財団法人に移行した。

競技会の規則体系

競技会はMFJ国内競技規則に基づき開催されます。また、競技の細部及び指示は大会ごとの公示・特別規則または、公式通知によって決定されています。

1 MFJ国内競技規則

- 総則
- ライセンス
- 競技会
- 裁定規則
- ロードレース
- モトクロス
- トライアル
- エンデューロ
- スーパーモト
- 全日本選手権大会特別規則(ロードレース、モトクロス、トライアル等)
- その他

2 大会特別規則

国内競技規則にもとづき、各シリーズや各大会ごとに決められた規則や競技会の内容を示したものの。

3 公式通知

大会特別規則に規定し得なかった規則や大会特別規則発表後に生じた変更点に対処するため、各大会ごとに主催が発行する通知。当該大会の審査委員会の承認が必要。

競技会

競技会の格式

MFJが統轄する競技会には、「公認競技会」と「承認競技会」という格式があります。

1) 公認競技会

公認競技会とはMFJ国内競技規則並びにMFJの定める諸規則に基づいて開催され、参加者はMFJ競技ライセンス所持者で、全国あるいは地域の選手権ポイント、昇格の為のポイントが設定されています。

2) 承認競技会

承認競技会は、昇格ポイントに関係なく、競技会主催者が定める独自の規則に基づき開催されるレジャースポーツ指向の競技会です。エンジョイライセンスまたはMFJ競技ライセンスで参加することができます。(但し、承認競技会でも、ロードレースでは、エンジョイライセンスでの参加は認められません。)

競技ライセンス

MFJ公認競技に必要な競技ライセンスの種類

種目	ライセンスの種類
ロードレース	ジュニア フレッシュマン 国内 国際
モトクロス	PC ジュニア 国内B級 国内A級 国際B級 国際A級
トライアル	ジュニア 国内B級 国内A級 国際B級 国際A級
スノーモビル	ジュニア B級 A級
スーパーモト	B級 A級
エンデューロ	国内 国際

エンジョイライセンス

ライセンスの昇格に関わらない“承認”格式の競技会や行事等に参加することができます。

ピットクルーライセンス

ライダーのサポートを行なうためのライセンスで、16才以上の方は申請だけで取得することができます。スタートエリアやピット・サインエリアで作業する場合は必ず必要になります。

競技役員的心得

- ①競技役員は、競技に参加する選手のよき指導者として、その言動・行動・服装等について範を示さねばなりません。自らの言動や身だしなみに注意を払い、迅速かつ適正に判断することを常に念頭におきましょう。
- ②競技運営の基本は、競技の公正・安全・秩序を維持することです。公正・安全を維持するために国内競技規則その他のルールが定められています。
競技役員が公正・安全を確保するためには、諸規則に精通し、その上コース現場における諸現象に対し、知識に基づく正しい判断による措置が要求されます。知識に基づいて事象に対応する力、それは貴重な経験によって培われます。
- ③緊急事態発生時、直ちに対応措置すべきことを確認理解していなければなりません(指定された職務又は配置されたポストにおいて競技中緊急事態が発生した場合の対応措置について、お互いの役割等について確認しておきましょう)。
- ④競技役員は、スポーツマンとしての誇りを堅持し、特定の企業、団体又は個人に対し、有利、又は不利益になる取り扱いをしてはなりません。

競技役員の任命等

競技役員の任命は、主催者が基本的に行います。
(大会の格式によって異なります)

競技役員の兼務

大会審査委員長・審査委員以外の競技役員は、一人で複数の役務について兼務することができます。

競技役員の競技参加の禁止

競技役員として参加している競技会の競技に出場することはできません。

競技役員の区分と階級

競技役員区分は、ロードレース、モトクロス、トライアル、スノーモビルに区分され、その階級は当該種目ごとに1級、2級、3級である。

競技役員職能区分と昇格ポイント

ロードレース・モトクロス・トライアル・スノーモビルの公認・承認競技会における競技役員職能区分と昇格するための実務ポイントは、それぞれの階級により付与されます。

※詳細はMFJ国内競技規則書を参照。

●実務ポイント(2017年より)

	審査委員・競技監督・副監督	各役務(正・副)	各役務
全日本選手権以上	15	10	5
地方選手権以下	10	5	3

●昇格に必要なポイント

- ①3級競技役員(以下「3級」という)から2級競技役員(以下「2級」という)への昇格の実務ポイントは15点以上。
- ②2級から1級競技役員(以下「1級」という)への昇格の実務ポイントは50点以上。

競技役員資格と要件

競技役員を希望する者は、次の要件を備えていなければなりません。

- ①MFJ国内競技規則ならびに同付則に精通し、かつモーターサイクル競技に関する総合的知識と判定能力を有していること。
- ②MFJの公認する競技役員講習会を修了していること。
- ③年齢18才以上であること。

競技役員ライセンスの有効期間

競技役員ライセンスの有効期間は、4月1日～翌年3月31日までです。

競技役員昇格と申請期間

競技役員昇格を申請する場合は、昇格資格を得た後に、証明書(MFJ競技役員実務カード)を添付して、MFJに申請してください。

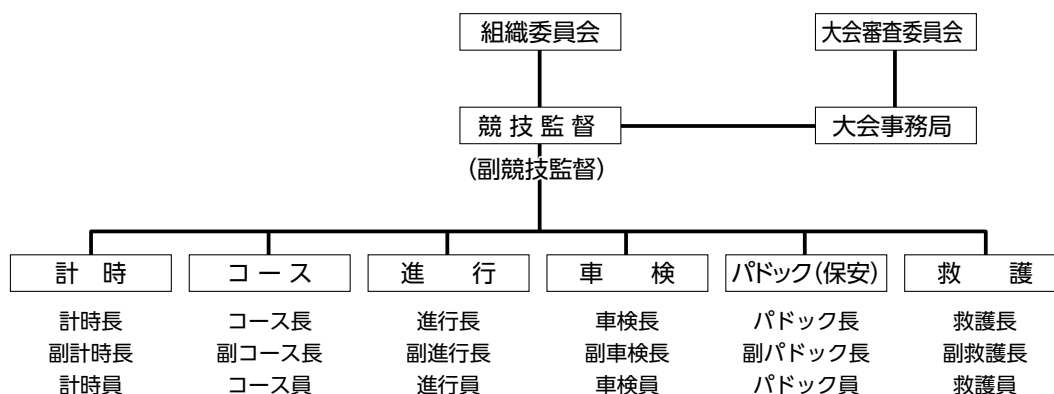
資格の停止または取消し

競技役員による重大な規則違反、またはMFJおよびモーターサイクル・スポーツ一般の発展を阻害するような行為があったと認められる場合や、その他反社会的犯罪を犯し有罪となった場合、資格の停止、または取消しの処分を受ける場合があります。

モトクロス競技役員の仕事

競技役員

モトクロス競技会の運営には多くの人々が携わっています。“オフィシャル”といっても、コースで旗を振る人やマシンを確認する人、リザルトを出す人等、その役務は様々です。スムーズにレースを進行させるためには、オフィシャル組織全体の仕事の流れを把握し、自分の置かれた立場を理解することが重要となります。



任務

A 組織委員会

競技会に関する必要な全ての権能を主催者より委任され、大会審査委員及び競技監督以下の実務担当競技役員を委嘱します。又、組織委員は実務担当競技役員を兼務することができます。

B 大会審査委員会

FIM憲章・MFJ国内競技規則ならびに大会特別規則に基づき、競技を管理・審査する当該競技会の最高機関です。この際、競技参加者（ライダー、ピットクルー）だけでなく競技役員を含む競技関係者全てに対する管理・審査を行ない、緊急事態の場合、レースの延期や中止を決定し、大会の運営に混乱が生じた際の最終的な決裁や判断が委ねられています。実務担当競技役員とは完全に独立した部門で、他のいかなるセクションとも兼務することはできません。

大会審査委員会は車検開始前に会場入りし、競技中は常に大会審査委員会室もしくは連絡のとれる場所で待機しなければなりません。抗議等があれば審査委員会を開き裁定します。

◆審査委員会の主な役務

- 「規則に基づき競技会が運営されていることを確認する」
- ①審査委員、競技役員（長）のライセンス（資格）確認
 - ②予選・決勝結果の承認
 - ③事故・負傷者の把握（脳震盪症状等の選手の出場可否決定）
 - ④ライダーの違反行為に対する罰則の裁定
 - ⑤抗議の裁定
 - ⑥競技実行組織の違反行為に対する罰則の裁定
 - ⑦大会の中止・一部打ち切り（組織委員会、競技監督との協議）
 - ⑧特別規則・公式通知の変更承認（競技監督との協議）
 - ⑨安全対策に関する進言

C 競技監督

競技運営の最高責任者。FIM憲章・MFJ国内競技規則・大会特別規則・公式通知に則り、タイムスケジュールに沿って競技を指揮・進行させると共に、全ての競技役員の監督を行ないます。この場合の“競技”とは公式車検開始時から全ての決勝結果の正式発表までを指します。競技監督は特に次のことを行なわなければなりません。

◆競技監督の主な役務(副競技監督も同様の役務)

「規則に基づき競を円滑に運営する」

「必ず、副競技監督を設置し、3名以上の複数体制で行う」

- ①オフィシャル体制、コース状況、安全対策が万全であるか?の確認
- ②各セクション競技役員、事務局、審査委員会とも無線系の確認
- ③ライダーズブリーフィング、オフィシャルミーティングの実施
- ④レース短縮(規則で規定している範囲)や中止(赤旗提示)、レースフォーマットの変更、タイスケ変更を決定(審査委員会との協議)
- ⑤予選・決勝結果の確認
- ⑥ライダーの違反行為に対する罰則の裁定
- ⑦競技実行組織の違反行為に対する罰則の裁定

D 車検

車検員は、車両の改造が規則通り行なわれているか? 安全な状態にあるか? をチェックします。車検員全員が競技規則(特に車両規則)の解釈について統一見解を持つことが大切です。特に、検査を複数の列で行なう場合、各列での食い違いのないよう細心の注意を払いましょう。

①車両検査

- a. 出場登録した車両かどうかを確認。
- b. 定められている改造範囲が守られているかの確認。
- c. 安全性の確認。(各部締めつけ、ブレーキ・チェーン等)
- d. 車両の指定された部所へのマーキング。
- e. 合格車両に車検合格シールを貼付。(事前に見やすい貼付場所について確認しましょう)

②スタート前チェック

- a. マーキング、車検合格シール等の確認。
- b. 再度主要箇所の安全性チェック。
- c. たとえ合格証があっても不備を発見した場合、再修理を要請します。修理後再度チェックし、安全性を確認。
- d. 走行中に黒旗が出されたマシンがピットインしたら、その状態を確認して必要に応じて修理を要請するか、走行を中止させなければなりません。再スタート時には整備状態を確認します。
- e. トランスポーターシステムが採用されている大会では、発信機の動作確認。

③入賞車両の車両保管及び分解検査

- a. 各レースのゴール後、規定された入賞車両を車両保管区域へ保管。
- b. 必要に応じて音量を測定。
- c. 規則違反の改造が発見された場合、車検長は直ちにその内容を競技監督に報告します。また、エンジンを分解して検査する場合、作業は当該車両のメカニック、ライダーが行ない、それに立ち会い監視します。(疑問等があればメカニックに質問すること)
*車両保管時、保管場所にはオフィシャル以外立入禁止にします。
- d. 規定時間内(暫定結果発表後20分)に問題がなければ、車両保管解除を大会事務局に伝達。

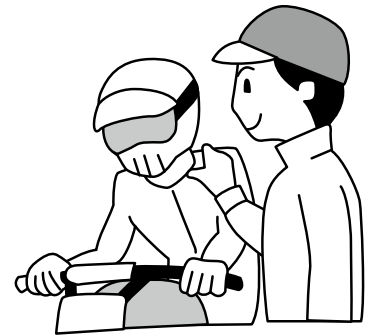
E 計時

コントロールラインを通過するライダーを正確に記録し、順位を集計します。どんなにスムーズな競技進行であっても、結果が出なくては競技が成立しないということを念頭において、ミスのないようにする。役割分担は大きく分けて、車番記録(ラップスコアラー)・照合・集計・結果表作成となります。一つのミスが全体に響いてくるので、常にチェックしながら作業を行ないましょう。

- ①スタートの合図と同時に計測を開始。先頭ライダーがゴールラインを通過した時間を記録します。スタートと同時に計測を開始し、最終ライダーがコースアウトするまでのタイムを計測する。
- ②スタートの合図から最終ライダーがチェッカーを受けるまでの間、コントロールラインを通過する競技車のゼッケンナンバーを通過順に記録します。記録方法は競技形式、天候等の状況に合わせた方法を選択します。
- ③大会審査委員会および競技監督の要求に応じて記録表の原本、またはその写しを提出しなければなりません。大会審査委員会および競技監督より指示のない限り、大会審査委員会以外に公式タイム、公式記録原本を公表する必要はありません。
- ④天候、その他により競技者のナンバー等が判別しにくい場合、状況に合わせて対策を競技監督と検討し、最良の方法で順位を見定めます(例:ゼッケンプレートに泥のつきにくいケミカルを使用する等)
- ⑤フラッグマーシャルに対し残りの競技時間、または周回数を指示します。先頭車両に対し、チェッカーフラッグを出す指示をします。

F 進行

- ①大会競技監督の指揮下で、常にタイムスケジュール通りに進行します。
- ②天候や保安上緊急の事情がある場合を除き、タイムスケジュールを早く進行させてはなりません。また遅れが出た場合は、なるべく早くオンタイムに戻すようにし、エントラントへ情報を早めに、確実に伝えましょう。
- ③タイムスケジュールどおりに進行させるためにコース員、計時員等が事前に打ち合わせを行ない、共に協力しあうことが必要となります。
- ④スタートラインへの誘導
 - a. 抽選等で決めた順序に従いスターティング・グリッドへライダーを誘導します。必要に応じて場内放送等によりライダーをスタートラインへ集合させましょう。
 - b. 出走予定選手の出走・不出走の確認を行い、計時及び競技監督に報告します。この際ライダーの装備やマシンの状態にも注意しましょう。
 - c. コースマーシャルからコースクリアの確認を取ります。
 - d. スタート準備が完了したことを報告し、各関係部所の了解を取りスタートさせます。
- ⑤フラッグ員の任務
 - a. 国旗等によりエンジン始動の合図で出します。
 - b. 1分間のウォーミングアップ後、スタートまでの時間を提示します。(15秒前、5秒前等)
 - c. フライングおよび反則があった場合、赤旗により全車を停止させ、手順に従い再スタートさせます。
 - d. チェッカーフラッグによりレース終了の合図をします。



G コース

- ①コース員は大会競技監督の指揮下に入り、各自の担当箇所の事故(転倒、その他)を黄旗等により後続車に知らせます。また、規則に定められた反則行為に対し、公平かつ速やかに判定をくださなければなりません。常にコースの安全性を確保しなければなりません。
- ②各自の担当箇所における転倒、その他によって障害物等がある場合、二次災害を防ぐため黄旗によって後続車に知らせなければなりません。
- ③違反行為があった場合、当該ライダーNo.とどこでどの様になったかを記録し、コース長または競技監督へ無線で報告します。


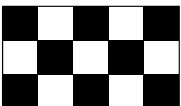

<主な違反例>

 - a. コース員により示された信号旗に従わない場合。
 - b. コースカットした場合。(コースアウト後、自分に有利となる所よりコースに復帰した場合)
 - c. コースを逆走した場合。
 - d. レース中にコース員以外の援助を受けた場合。
 - e. 故意に他のライダーの走行を妨害した場合。
- ④転倒などによりコース上にケガ人がある場合、その状態に応じて速やかにライダーやマシンをコース外に移し、必要に応じて救護員に救護を要請します。(その時、白旗を提示してレース中の競技車両にコース内で救護中であることを知らせなければなりません)
- ⑤コース役員は自らの身の安全が第一です。ヘルメットの着用や立ち位置に逃げ場を確保しておきましょう。
- ⑥周回遅れが発生した場合、速やかにブルーフラッグを提示します。(ブルーフラッグ担当者のみ)
- ⑦観客等が危険箇所、または立入禁止区域へ立入った場合、それを排除するか、排除を要請します。(この場合、言動に注意してトラブルのないようにしましょう)
- ⑧コーステープ、杭等が破損した場合および危険箇所がある場合、修復するか、修復を要請します。
- ⑨コースアウトしたライダーがコース復帰する際、「ジャンプ着地点」、「後方からのライダーが確認できない場所」は禁止とし、立入禁止テープ等を設置しておきます。
- ⑩コースマーシャル
 - a. コースマーシャルは1レース終了ごとに周回し、コース上の障害物の有無を確認します。
 - b. コース上に転倒車、または障害物がある場合コース外へ排除します。
 - c. コーステープ、杭等の設営状況、コース内、および観客用区域の危険箇所の有無を確認します。
 - d. コーステープ、杭等が破損したり、危険な所がある場合には、その場所の修復後に進行員にコースクリアを報告します。
 - e. コース員より競技者の違反行為の報告があった場合、ライダー名、ゼッケンナンバー等を確認の上、大会競技監督に報告します。
- ⑪その他
天候、その他の影響により公平なレース進行が不可能な場合は、その状況を競技監督に報告して対応策を関係役員と共に検討します。

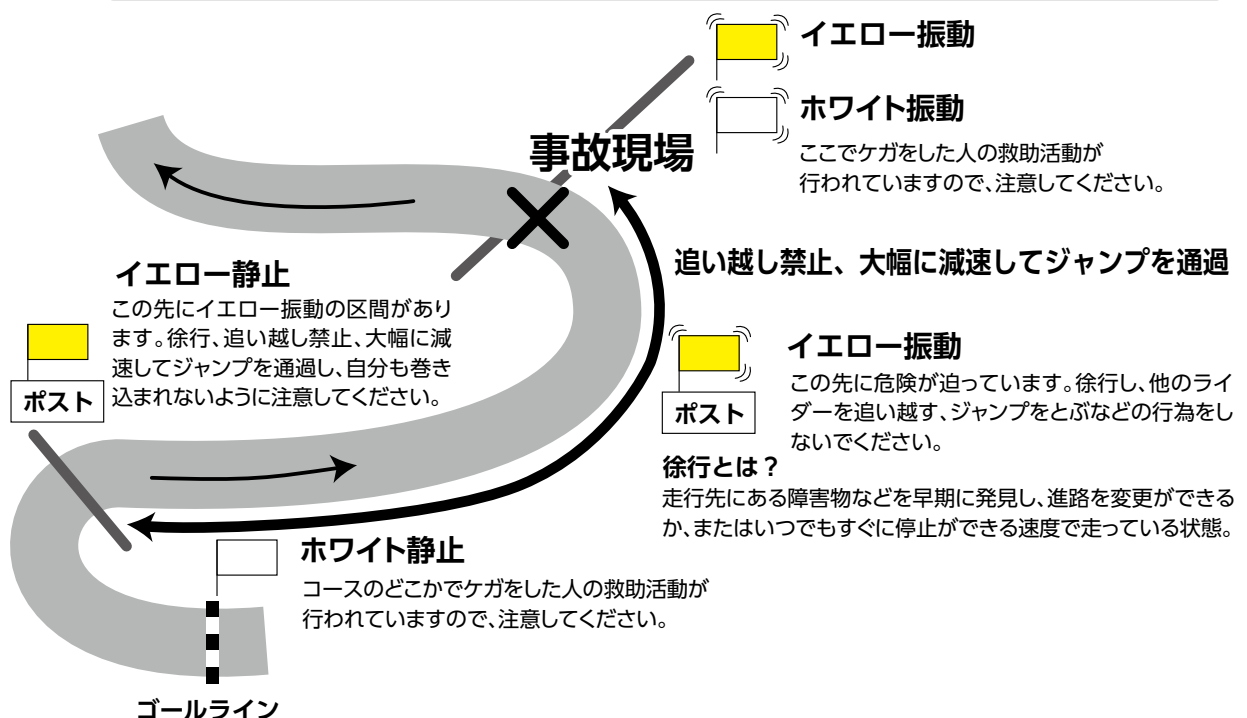


■ レース時の合図(公式シグナル)は?

モータースポーツは競技中、言葉による伝達ができないため、競技中に使用される合図は旗を使用しています。つまり、大きな声で叫んでも情報がライダーに伝わりません。そのため、目で確認し、瞬時にその状況を情報として得ることのできる方法として旗を採用しています。

国旗	黄旗 (イエローフラッグ)
 <p>レーススタート (スターティングマシンで行う場合がある)</p>	 <p>速度を大幅に減速、停止準備、追い越し禁止、大幅に減速してジャンプを通過する。</p> <p>静止 この先に転倒、事故発生現場がある。</p> <p>振動 転倒、事故発生現場を表す。</p>
白旗 (ホワイトフラッグ)	赤旗 (レッドフラッグ)
 <p>振動または静止 コース上で救護活動が行われている。 または救急車両等の介入車両がある。</p>	 <p>スタート時 フライングのためスタートやり直し。</p> <p>レース時 全ライダー停止。</p>
チェッカーフラッグ	青旗 (ブルーフラッグ)
 <p>レース終了</p>	 <p>振動 警告、ラップされようとしている。</p>
緑旗 (グリーンフラッグ)	黒旗 (ブラックフラッグ+黒字に白文字サインボード)
 <p>レーススタート時におけるコースクリアを示す。またはエンジン始動の合図に使用される場合がある。</p>	 <p>サインボードで示された番号の競技車両は速やかにピットインする。</p> <p style="text-align: center;">1 ボード</p>

白旗と黄旗が出されるケース (判例)



H 救護

- ①救護員は、負傷者の救出が主な任務です。大会開始前にコース員とコース内、外で負傷者が出た場合の合図の方法等を打合せておきましょう。
- ②医薬品の有無の確認、救急搬送車両の手配の方法等の確認、レーシングドクターが来場していることを確認しておきましょう。また、近くの救急病院の確認も大切です。
- ③合図があれば救急搬送車両をすぐ出動できるように、常に大会本部近くに待機させておきます。
- ④競技スタート後は競技車両から目を離さないようにします。
- ⑤ライダー、観客等に負傷者が出た場合、速やかに医務室に搬送します。
- ⑥負傷者の数および負傷の程度を大会競技監督に書面で報告します。

I パドック

- ①ライダーのパドックおよび駐車場の管理が主な任務となります。
- ②定められた時間前には入場させてはいけません。
- ③駐車スペース等で不平が出た場合、穏やかに状況を説明し対処します。
- ④特に観客に対し、不快な気持ちを与えない対応を心掛けましょう。

J 大会事務局長の任務

大会事務局長は競技会、組織委員会の要請に基づき、その大会運営、競技規則の補則の作成配付、競技会に必要なすべての人員、資材の調達等、各事務部門を指揮してすべての事務作業をどこおりなく行なう責任を担っています。競技中は、車両変更、リタイヤ届の受付などの事務手続きの窓口だけでなく、負傷者発生時の状況把握や競技役員への対応や観客、スポンサーへのフォローなど幅広く対応しなければなりません。

大会事務局長は大会終了後1週間以内に所定の様式による公式報告書をMFJに提出しなければなりません。また大会審査委員会が作成する報告書作成の補佐を行ないます。

大会事務局長は、競技の内容、結果について抗議があった場合はまず抗議の資格のある者であるか否かを確認します。

- ①抗議は文書をもって抗議保証金をそえて大会事務局へ提出されたもののみが受理される。
- ②暫定結果に対する抗議は発表後20分以内に限られる。

K その他(全般)

- 各役務の服装は、公平という観点から車両名や特定メーカー名の入ったジャンパー等は、絶対に着用してはいけません。
- エントラント、観客に対する言葉づかいや行動には、特に注意しましょう。
- 独自の判断で裁定を出すのではなく、各セクションの長・副へ相談し出しましょう。
- 安全対策には特に注意を払い主催者・施設・競技役員が協力すること。
観客事故が発生することのないよう、十分な対策を事前にたてましょう。

